横浜市立杉田小学校

令和4年度 8月学校だより

624 号

令和4年7月22日









学校ホームページアドレス https://www.edu.city.yokohama.jp/sch/es/sugita/



## 笑顔いっぱいの夏に

校長 藤﨑 健児

2020年3月の新型コロナ感染症拡大防止のための臨時休校から約2年5か月が過ぎようとしています。小学校ではコロナ禍の3回目の夏休みを迎えることになります。

7月16日に「杉田地区コスモスミーティング」に参加させていただきました。ミーティングのテーマは「コロナ禍で影響を受けている子どもたちの現状について〜地域でできること〜」。 杉田地区の自治会や町内会、各団体の皆様に、コロナ禍での子どもたちの様子をお伝えしました。 その会の始めに梅林小、浜中、杉田小の校長から児童生徒の現状をお伝えしました。その一部をご紹介します。

学校では「新しい生活様式」として、手洗いの励行やマスクの着用、給食の黙食などを指導しています。子どもたちはこの「新しい生活様式」を守りながら、元気よく生活しています。しかし、子どもたちは「がまん」をし続けています。この2年間、宿泊行事をはじめとする学校行事の多くが活動内容の変更を余儀なくされました。マスクで友達の表情が見えないことで、互いの気持ちを十分に読み取ることができない不安を感じている様子も見られます。また、視力や体力の低下が見られ、内科検診では姿勢も悪くなっていることが分かりました。これは、感染拡大以前に比べて、屋外で過ごすことが減ったためだと考えられます。また、給食は全員が一方方向を向いて黙食することを指導しています。その結果、食べる時間は増えているのですが、残食の量が増えています。これは以前のように「いただきます」をしたあとは「おかわり」ができないことだけでなく、「会食の楽しさ」を感じることができないことも要因の一つだと私は考えています。

学習は横浜市のガイドラインに基づいて行っています。「密集空間」「密集場所」「密接場面」をできるだけ避けながら学習をします。一人1台のタブレットが貸与され、ICTを活用した学習が多く行われるようになりました。しかし、学校での学習に欠かせない、友達とともに活動したり、考えたりすることが制限され、子どもたちの学習の喜びや意欲を減退させているように感じます。教職員は「どうすればできるか」を考えて工夫をして指導をしています。

各自治会や町内会、団体からは「様々な行事を工夫して実施してきた。引き続き子どもたちの ために工夫し、できることを実施する。」とのお話がありました。大変ありがたく感じました。

コロナ禍でも子どもたちは楽しそうに学習をしています。今年度は水泳の学習も行っています。密を避け各学年2学級ずつ、プールサイドまでマスクをして水筒を持参しています。そして、マスクを外したときにはできるだけ話をしないよう指導を工夫し、新型感染症と熱中症を同時に予防しています。1~3年生は小学校のプールに初めて入りました。とてもうれしそうで、笑顔があふれていました。

登校を見守っているとき、汗だくの子に「暑いね、大丈夫?」と声をかけると「暑いけど大丈夫!」と元気な声が返ってきました。「昨日、カブトムシを捕まえたんだよ。」と話す子もいました。子どもたちには夏休みも元気に過ごし、長い休みにしかできない経験をたくさんしてほしいと思います。引き続き、ご家庭でのお子様の健康管理をよろしくお願いいたします。笑顔がいっぱいの夏休みになることを願っています。

